

令和3年度 学校評価

内子町立小田小学校

- 1 実施期日 令和3年12月～令和4年2月
- 2 対象 保護者33名 児童48名 教職員11名
- 3 学校教育目標 ふるさとに誇りをもち、自ら学び、自ら考える児童の育成
- 4 結果
 評価結果は、「そう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・思わない・分からない」の5つの選択肢の内、「思う・やや思う」を肯定的意見、「あまり思わない・思わない」を否定的意見としている。

	アンケート項目	取組	評価結果	関係者評価委員・保護者意見等	考察・改善
児童の様子	1 児童は楽しく学校に通っている。	教職員間でも子どもたちの様子についての情報を共有し、児童の言動に気を配り、些細な変容にも気付くよう努めている。また、「児童の話聞く」という姿勢で、児童と接するように努めている。	肯定的意見 保護者 100% 教職員 100% 児童 100% 否定的意見 保護者 0% 教職員 0% 児童 0%	「楽しく学校に通っている」が100%なのは素晴らしい。 楽しく学校に通っているということがよいことだと思う。 子どもが学校から帰ると「今日も楽しかったよ。給食おいしかった。」と言っている。おいしい給食を作っていたいただき、ありがたい。	頑張っているところやよかったところを伝え合うことで、お互いを認め合う雰囲気作りを行うことができた。 気持ちよく学校生活を送れるようにするために、登校してから朝の会までの時間を大切に、一日のリズムを作れるよう工夫してきた。
	2 児童は、授業が「分かりやすい」または「楽しい」と思っている。	「めあて」と「まとめ」を明確にするなどして1時間1時間、しっかり力が身に付くような授業を目指し取り組んだ。 漢字や計算の反復学習を行ったり、毎月、月末テスト（漢字・計算）を実施したりして、基礎・基本の定着を図った。 学習教室「学び舎」を開設して外部講師を招き、放課後の補充学習を行った。 2月には複式学級についての説明会を行い、学びへの意欲の向上等について保護者の理解を得た。	肯定的意見 保護者 91% 教職員 91% 児童 91% 否定的意見 保護者 6% 教職員 9% 児童 9% 分からない 保護者 3%	アンケートを見る限りにおいてはよくできていると思う。 少人数ならではの個別の対応をしていただいていると感じる。 複式学級であっても先生方が工夫しながら授業を行っている。今後も継続してほしい。 学期末(2学期)にまとめが進められた教科がある。理解ができていないと思うところがあった。 複式学級になり、学力が身に付いているのか心配だ。	教職員全員が研究授業を行い、授業後には校内研修で話し合い、授業改善を図った。 月末テストに向けての学習を継続的に続け、漢字・計算ともに効果的だった。 児童は、学習教室「学び舎」に意欲的に取り組み、保護者からも好評である。 来年度も継続していく。 来年度は、コロナ禍で今年度実施できなかった複式学級の授業見学を行い、保護者の理解や協力をさらに得るようにする。
	3 児童は、家庭で学習する習慣が身に付いている。	それぞれの学年の実態に応じた量の宿題や自主学習を家庭学習とした。	肯定的意見 保護者 91% 教職員 100% 否定的意見 保護者 9% 教職員 0%	学習の習慣を付けることが大事だと思う。 宿題はできているのだと思うが、家庭学習について7月と12月では数値が下がっているのが気になる。 課外活動のある時期は、家での学習時間が少なくなっている。	児童の実態に応じた家庭学習の量になるように考えていきたい。 また、家庭学習の手引きを作成、各家庭に配布し、理解と協力を得る。
	4 児童は、進んであいさつをしている。	学級指導や集団下校時の生徒指導、地区児童会等であいさつの大切さについて指導、あいさつがよくできる児童を奨励するなどして啓発を行った。 3学期は、あいさつ強調デーをもうけ、全校ボランティア児童によるあいさつ運動を行った。	肯定的意見 保護者 91% 教職員 100% 否定的意見 保護者 9% 教職員 0%	元気で明るいあいさつができている。元気のよいあいさつから児童が健やかな成長を感じる。 子どもたちのあいさつで地域の雰囲気が明るくなる。 中には恥ずかしがっている子もいる。会釈だけでもいたし方ないのかなと思う。	継続した指導を行うとともに、ボランティア児童によるあいさつ運動の回数を増やし、隣接する小田中学校とタイアップしながら、あいさつ運動を推進していきたい。

	アンケート項目	取組	評価結果	関係者評価委員・保護者意見等	考察・改善
児童の様子	5 児童は思いやりのある心が育っている。	<p>特別の教科「道徳」の時間を中心に、全教育活動を通して道徳性の育成を図った。</p> <p>各学級で朝の会や終わりの会の時に友達のよかったところを発表する時間を設定している。</p> <p>玄関ホールに友達のよさ、頑張っているところを紹介する掲示場所を設け、定期的に校内放送で全校に紹介している。</p>	<p>肯定的意見 保護者 100% 教職員 100%</p> <p>否定的意見 保護者 0% 教職員 0%</p>	保護者のアンケートを見てもすばらしい実践ができていると思う。	<p>お互いによいところを認め合ったり、協力し合ったりすることで、仲間作りを行い、思いやりの心を育んできた。</p> <p>道徳の授業の充実や様々な体験活動、交流活動の実践を通して、豊かな心を育んでいきたい。</p>
	6 児童は、外で遊ぶなど進んで体を動かしている。	<p>毎週木曜日のわくわくタイムで児童と教職員が一緒に遊ぶ時間を設けている。</p> <p>陸上の課外体育に4年生以上が取り組み、体力の向上やスキルアップに努めた。</p> <p>冬場には、なわ跳びや持久走の全校行事を計画し、児童が積極的に体力作りに取り組めるよう工夫した。</p>	<p>肯定的意見 保護者 85% 教職員 100%</p> <p>否定的意見 保護者 15% 教職員 0%</p>	<p>子どもたち自身で毎日楽しく遊んでいるように思う。</p> <p>やや肥満傾向にあるのではないかと思う児童もいる。児童の運動不足による体力低下等の対策、外遊びの奨励もよいと思う。</p>	<p>わくわくタイム等で多学年との交流を深めながら、しっかりと体を動かすことができた。</p> <p>課外活動では児童の特性や意欲を大事にして指導し、体力アップやスキルアップにつながった。</p> <p>IT スタジアムへの参加や、なわ跳び大会を開催することで、児童の意欲が高まり、体力の向上につながった。</p>
	7 児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身に付いている。	<p>全校児童を対象に生活リズム調査を実施し、結果を保護者に知らせたり、保健便りや掲示コーナーを活用したりするなどして、子どもや保護者への健康面での啓発を行った。</p> <p>栄養教諭と養護助教諭による学級指導を行い、学校と家庭の連携を図った。</p>	<p>肯定的意見 保護者 91% 教職員 100%</p> <p>否定的意見 保護者 9% 教職員 0%</p>		<p>就寝時刻が遅い児童や保護者に対しては今後も個別に指導していく。</p> <p>工夫された掲示物に児童が関心を持ち、健康についていろいろ考えさせることができた。</p>
生徒指導	8 学校は、いじめや差別のない楽しい学校づくりに努めている。	<p>毎月、生活アンケートを実施し、悩みのあるなしに関わらず、全ての児童個別に話を聞き、児童一人一人と向き合う時間を設けた。</p> <p>定期的に情報交換の場（職員朝礼、月例職員会議）を設け、児童の様子や問題行動等について共通理解を図り、全職員で早期対応をするよう努めた。</p>	<p>肯定的意見 保護者 76% 教職員 91% 児童 96%</p> <p>否定的意見 保護者 12% 教職員 9% 児童 4%</p> <p>分からない 保護者 12%</p>	<p>子どもたちの様子を見ると細やかな対応をしていたことが伝わってくる。</p> <p>児童数が少ないことで先生方の目も行き届き、縦の関係も横の関係もよいように思う。</p> <p>大人、全体で見守っていかなければと思っている。</p>	<p>教職員の感度を高め、日常の児童の言動、日記、毎月の生活アンケートなどで児童の実態把握に努めている。今後も、子どものサインに早く気づき、話を聞くなど対応に努めていく。</p> <p>教職員間の情報交換を引き続き密に行いたい。</p> <p>必ず記録を残すことを徹底する。</p>

	アンケート項目	取組	評価結果	関係者評価委員・保護者意見等	考察・改善
教育活動	9 学校は、小田の人・自然・文化を生かした教育活動の充実に努めている。	2学期は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、地域の方を学校行事へ招待することができた。 2学期に行った学校運営協議会「おだのふれあい応援部会」が行った「ふれあい講演会」は、児童がふるさと小田のよさを再発見するよい機会となった。 さつまいもの収穫、文化財・巨木巡り、バードウォッチング等、地域のよさに目を向けた体験活動を積極的に行った。小田深山での活動（5年）やスキー・スノボ教室等、小田ならではの体験活動を実施した。	肯定的意見 保護者 91% 教職員 91% 否定的意見 保護者 3% 教職員 9% 分からない 保護者 6%	地域とのつながりを大切にしていることが伝わる。 コロナ禍でありながらよくできていると思う。時期・時代に合わせていけば大丈夫だと思う。 コロナ禍で地域との活動が制限されていることが残念。今後に期待する。 自治会との交流を行うとよい意見が出るのでは。 お年寄りとクロッキーをするのもよい。 学校運営協議会で作成した人材バンクをもっと活用してほしい。	昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症の影響で、ふるさと学習に関する活動が十分にできなかったことが残念だった。 運営協議会「おだの学び部会」で作成している人材バンクを活用し、感染対策をしっかりと行いながら、コロナ禍でも実施できるような活動を工夫していきたい。
児童理解	10 学校は、児童理解や信頼関係づくりに努めている。	児童対象に校長主導によるアンケートを行い、気になる事例については児童・保護者より話を聞き、迅速な対応を行った。保護者や地域からの問い合わせや要望に対しては、迅速かつ誠実に対応するよう努めてきた。また、職員間で情報を共有するよう、報告・連絡・相談を徹底した。 電話や来校者に対して、誠実な対応を心掛けた。	肯定的意見 保護者 76% 教職員 100% 否定的意見 保護者 12% 教職員 0% 分からない 保護者 12%	学芸会を楽しませていただいた。役作りにより、一人一人の個性を大切にした指導がされていた。その子なりの意欲が感じられ、成長が見えてよかった。 学校へ行くと子どもの様子を伝えていただき、子どものことをよく見ていただいているのだと安心している。 子どものことで保護者への説明や声掛けを欠かさずに行っていたいただきありがたい。	校長主導のアンケートは、今後も継続し、定期的に行っていく。保護者や地域からの相談等については、報告・連絡・相談を確実にを行い、早めの対応、確実な返答、誠実な対応に努めた。 電話や来校者への誠意ある対応や保護者との人間関係作りを今まで以上に心掛けていきたい。
健康・安全教育	11 学校は、健康安全や防災教育の充実に努めている。	幼・小・中合同避難訓練を実施、今年度は、豪雨による水位の上昇を想定した垂直避難、不審者対応訓練をも行った。また、地域の防災訓練に小・中で参加、実際の避難の場を想定した安全教育を計画的に行った。 保護者等から情報で、通学路を変更、教職員で情報を共有、児童に対して安全指導を行った。	肯定的意見 保護者 94% 教職員 91% 否定的意見 保護者 3% 教職員 9% 分からない 保護者 3%	自治会との合同訓練などよい取り組みだと思う。いろいろな場面を想定しながら今後も継続していくとよい。 不審者対策など十分に指導されている。 広く地域に意見を募るとよい。 道路などで遊ぶ場合、ルールを守るなど身に付ける必要がある。	集団下校時には交通安全面だけでなく、不審者対応、水の事故防止など、身を守る行動についても継続して指導を行う。 「自助・共助」の意識を高める安全教育に努める。 幼・小・中合同の避難訓練を継続し、内容を工夫するとともに、引き続き地域の防災活動にも積極的に参加していきたい。
健康・安全教育	12 学校は、児童の病気やけがなどの対応を適切に行っている。	職員朝礼などで、欠席の状況や気になること等に関する情報交換を積極的に行った。 児童の健康状態に何か気になることがあれば、家庭に電話連絡を入れたり、連絡帳で知らせたりした。	肯定的意見 保護者 85% 教職員 82% 否定的意見 保護者 6% 教職員 18% 分からない 保護者 9%	よくできていると思う。 電話や手紙等で学校の様子をこまめに連絡していただき助かっている。	児童が欠席したときや学校で体調不良になった場合には、学校より電話連絡を行い、健康状態等の確認を行った。 「分からない」と答えた保護者が9%もいた。誠実な対応と連絡をさらに徹底していく必要がある。

	アンケート項目	取組	評価結果	関係者評価委員・保護者意見等	考察・改善
	13 学校は、子どもが安心して学べるような施設環境になっている。	毎月20日には、教職員が学校敷地内を巡視し、遊具や校内の施設の安全点検を実施している。遊具の点検については、専門業者にも依頼した。 理科室の薬品庫は常時施錠している。使用後は記録簿に記入して管理職がチェックを行うなど、管理を徹底した。	肯定的意見 保護者 91% 教職員 100% 否定的意見 保護者 3% 教職員 0% 分からない 保護者 6%	見守り日を決めて行われていて、学校全体で子どもの安全を考えているのが分かる。 参観日の日に大きな揺れがあった(震度3)。マチコミ等で連絡がほしかった。	点検担当者を毎月変えることにより、細かいところまで常に確認していくようにした。 外回りの物も含めて、今後も、児童にとって危険な物はないかを、複数の目で常にチェックし、安全管理を徹底していきたい。
保護者・地域との連携	14 学校は、学校・学級通信・HPなどで積極的に児童の活動の様子等を伝えている。	ホームページを毎日更新し、児童の様子や学校の教育活動について紹介した。 校報や学級通信を発行し、子どもたちの様子や学校からのお知らせを伝えた。 今年度よりPTA会報を作成、本部役員会や幹事会で話し合ったことを各家庭に周知した。 運営協議会のメンバーのみなさんが地域に声を掛けていただき、奉仕作業にたくさんの方の協力を得ることができた。小田分校からも参加があった。	肯定的意見 保護者 88% 教職員 91% 否定的意見 保護者 6% 教職員 9% 分からない 保護者 6%	マチコミメールやホームページなどで情報共有もできていると感じている。 ホームページが毎日更新されていて、学校の様子がよく分かり、ありがたい。 ホームページにこれからも目を通すようにしたい。 学校での取組が地域に知られていない。児童数減少により、地域の関心が薄れているのではと心配する。 地域の方が学校に行ったり、先生方や子どもが地域に出かけたりして、触れ合う機会がもう少しあった方がよいと感じる。 地元の行事に積極的に参加し、話し合いを持つようにしてはどうか。 コロナが落ち着けば、運動会・学芸会等に地域に声を掛けてほしい。その日を待っている人は多い。	毎日ホームページを更新し、児童の様子や学校の教育活動の様子を紹介し、多くの方に見ていただいた。 校報や学級通信で行事に関する児童の感想等を掲載して、学校や児童の様子を知ってもらうことができた。 今後も様々な方法で、保護者や地域等への周知を積極的に行っていきたい。 今年度のPTA総会が中止になり、教職員の紹介が紙面でしかできなかったので、4年度に合わせて行う。
その他		5・6年生を中心に地元の方を講師に招いてプログラミングの授業を行った。 教職員がそれぞれの自分の持ち味を生かし、互いにカバーし合って、教育活動に当たっている。 少人数のよさを生かし、一人一人の児童への積極的な声掛けに努めている。		学芸会を楽しく見せていただいた。頑張っているんだと胸が熱くなった。	ICTの活用の幅を広げることは必須。職員研修を充実させ、誰もが活用できるようにしていく。 アンケートの中に分からないと答えた保護者が多かった。一人1台端末を利用して学級や学校の様子を紹介するなど情報発信を行い「見える」化を図っていきたい。 保護者の願いや思いをしっかりと理解するとともに、教職員の考えが保護者に伝わるように、今後も全員が協力しながら児童・保護者と接していきたい。